

『制御性T細胞
その発見から新しい医療に向けて』
大阪大学 特別栄誉教授
免疫学フロンティア研究センター 特任教授
坂口 志文



主な内容

特集—— より良い医療をめざして
附属病院、2回目の病院機能評価受審へ

令和7（2025）年度決算

令和8（2026）年度予算

トピックス—— ノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文先生による
特別記念講演が行われました

募金状況報告

表紙写真：満員の大堀記念講堂で特別講演を行った坂口志文先生（関連記事P.13）

特集

より良い医療をめざして 附属病院、2回目の病院機能評価受審へ

病院機能評価は、第三者の視点から病院の医療や運営を評価し、継続的な質の向上につなげるための制度です。附属病院では、2020年に続き、今年10月に2回目の受審を予定しています。受審はゴールではなく、より良い医療を実現するための通過点です。本特集では、病院機能評価の概要と受審に向けた取り組みを通して、患者さん中心の医療を支える附属病院の挑戦を紹介します。

病院機能評価（一般病院3）の受審

当院では、2020年8月に病院機能評価（一般病院3）を受審し、その後の再審査を経て2022年1月に認定を取得しております。認定期間は5年間となっており、2027年1月の期限までに更新が必要であることから、2026年10月6日（火）から8日（木）の3日間で受審いたします。

病院機能評価は、医療の質や安全性、組織運営の状況について第三者機関が客観的に評価し、継続的な質改善を促進する制度であり、病院機能評価の受審は特定機能病院の承認要件にもなっています。大学病院である当院には、高度急性期医療の提供に加え、教育・研究の推進や地域医療への貢献が求められており、病院機能評価では、患者中心の医療の実践、医療安全の確保、多職種連携による質の高い医療提供などが総合的に確認されます。

また、規程やマニュアルの整備だけでなく、それらが現場で適切に運用され、改善活動につながっていることが重視されます。今回の受審により、当院の強みと課題を見つめ直し、さらなる医療の質向上につなげる機会となりますので、職員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

審査の受審

◇審査時間

〈3日間〉1日目：8：30～17：30
2日目：8：40～17：30
3日目：8：40～12：30

◇審査体制

評価調査者（サーベイヤー）合計：9名（内訳）
診療サーベイヤー：2名、看護サーベイヤー：2名、
事務サーベイヤー：2名、薬剤サーベイヤー：1名、
医療安全サーベイヤー：1名、リーダー：1名

◇審査構成

1. 書類確認 2. 面接調査 3. 病棟概要確認
4. ケアプロセス調査 5. 医療安全ラウンド
6. カルテレ뷰 7. テーマ別調査
8. 部署訪問 9. 病院幹部面談
10. 公表および意見交換

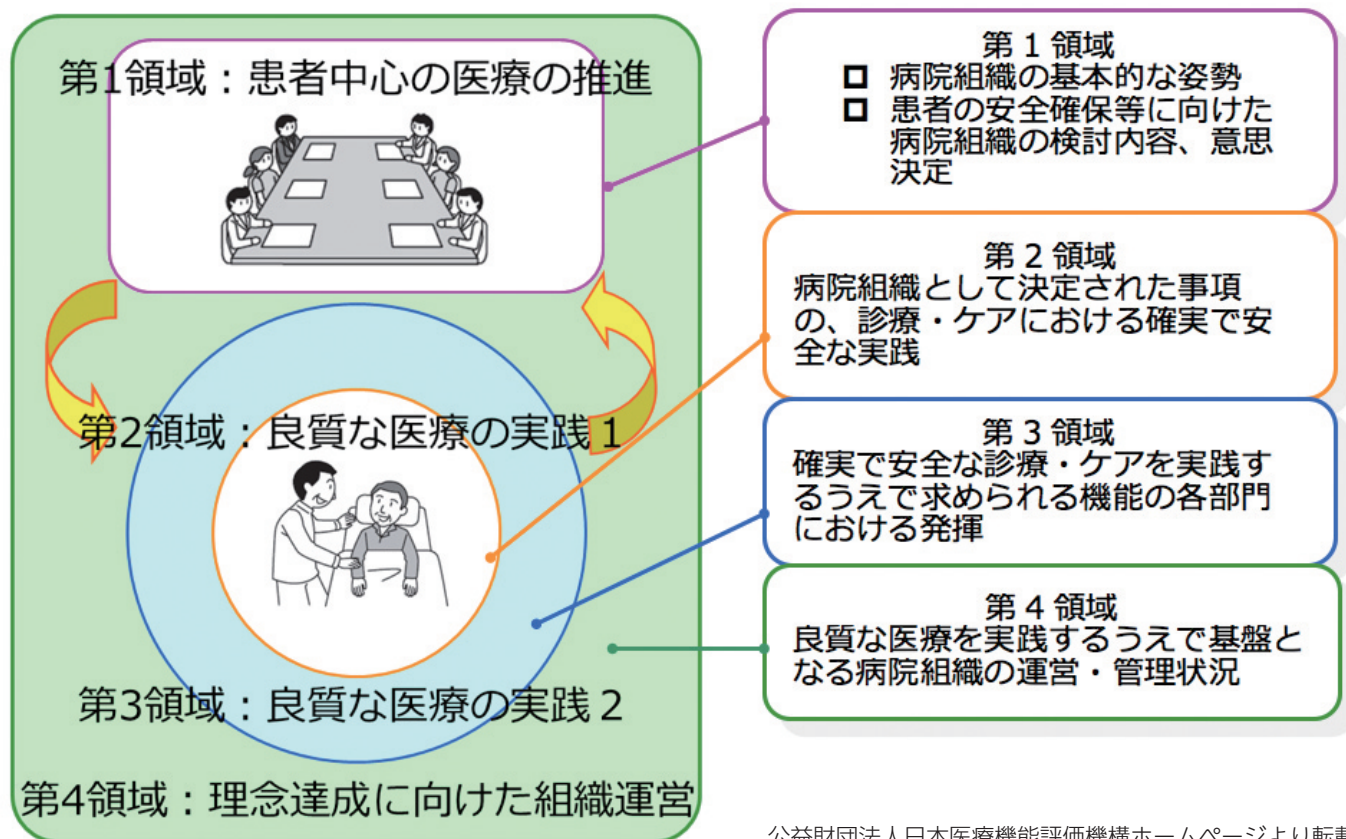
訪問審査当日のスケジュール【一般病院3】

	1日目 (8:30~17:30)	2日目 (8:40~17:30)	3日目 (8:40~12:30)
午前	■サーベイヤー事前打ち合わせ ■書類確認 ※ケアプロセス調査・カルテレビュー症例通知 ■開始挨拶・メンバー紹介 ■病院概要説明 ■組織運営についての説明 ■面接調査①（1領域・4領域）	■病棟概要確認（2病棟） ※機構指定 ■ケアプロセス調査（3病棟） ※機構指定 ■カルテレビュー ■医療安全ラウンド（3病棟以上） ※機構指定 ■薬剤テーマ別調査 ■テーマ別調査（人材） ■部署訪問	■病院幹部面談 ■再確認 ■サーベイヤー合議 ■講評・意見交換
午後	■病棟概要確認、ケアプロセス調査（2病棟） ※2病棟とも病院選択 ■テーマ別調査（組織・経営） ■部署訪問 ■再確認	■部署訪問 ■テーマ別調査（地域・患者支援） ■面接調査②（高難度新規医療技術、未承認新規薬品、臨床研究等について） ■面接調査③、④（医師・歯科医師、看護師の教育・研修） ■再確認	※朱書・下線部は、新たな評価方法

■ 評価内容

病院機能評価は、国民が安全で安心な医療が受けられるよう、病院組織全体の運営管理および提供される医療について第1～第4の4つの領域から評価されます。

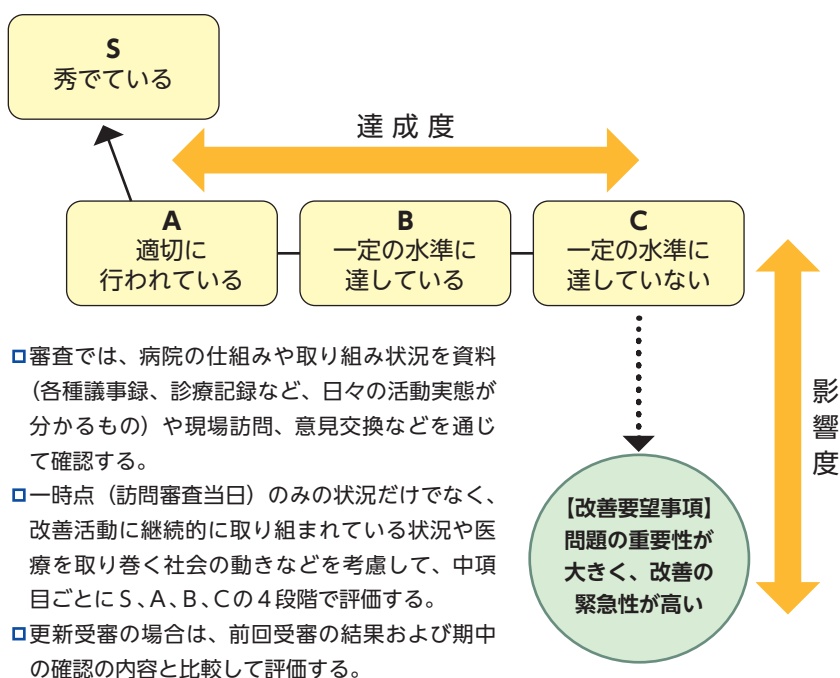
病院の基本的な姿勢（第1領域）が現場（第2領域・第3領域）に浸透しているか、また、現場での実践状況をもとに病院の基本的な姿勢の見直しの場が持たれているか、そして病院組織の運営・管理状況（第4領域）がそれらを支えるものとなっているか検討をしているかも確認されます。



■ 評価の定義

病院機能評価の評価は以下のS・A・B・Cの4段階となっており、C評価のうち、問題の重要性が大きく、改善の緊急性が高いものには改善要望事項が出され、強く改善を求めてられます。全ての項目でB評価以上となると認定が付与されます。

S評価	秀でた取り組みをしている
A評価	適切に行われている
B評価	一部課題はあるが一定の水準に達している
C評価	一定の水準に達していない



公益財団法人日本医療機能評価機構ホームページより転載

受審に向けた取り組み

附属病院では、受審に向けて各部署でさまざまな準備や改善活動を進めています。その主な取り組みをご紹介します。

■ 解説集・自己評価票の作成

病院機能評価の受審に向けた重要な取組の一つとして、現在、各部署において自己評価票の作成を進めています。自己評価票は、日本医療機能評価機構が定める評価項目ごとに、当院の取組状況や運用体制を整理し、評価基準を満たしているかを確認するための資料です。

作成にあたっては、多くの診療科・部署の皆さまにご協力いただきながら、日頃の業務内容や各種マニュアル、委員会活動等を改めて確認し、当院の現状を客観的に整理しています。また、評価項目への対応状況を可視化することで、病院としての強みや今後の課題を共有する機会にもなっています。

自己評価票の作成は、病院機能評価の受審準備としてだけでなく、医療の質や安全性、患者サービスの向上に向けた継続的な改善活動につながる重要な取り組みです。この場をお借り

し、自己評価票の作成や資料のご提出等にご協力いただいている関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

今後も関係部署と連携しながら病院機能評価の受審に向けた準備を進めるとともに、より質の高い医療の提供につなげてまいります。



■ カルテレビュー

カルテレビューは、診療記録の適正性と医療行為の質を確認するための審査項目のひとつです。診療記録(カルテ)の内容が正確で適切に記載されていることを確認し、医療の質と安全性を評価することを目的としています。診療記録は医療の継続性や安全性の基盤であり、カルテレビューを通じて記録の整合性や信頼性を高め、改善点を明確にすることが求められます。審査においては、診療サーベイヤー(医師)と看護サーベイヤー(看護師)がそれぞれ複数の症例をランダムに抽出します。事前準備が困難であることから非常に厳しい審査となり、日常の診療記録の正確性がそのまま評価されます。主な確認項目は次の通りです。

医師・看護師の
記録の適正性と
整合性

診療行為の
妥当性や
安全性の確保

多職種連携や
ケアの実施状況

記録の不備や
改善点の有無

病院機能評価において、カルテレビューは、組織全体の医療提供体制や診療の質を客観的に評価する重要な審査です。評価結果は病院の質改善活動に活用され、医療安全や診療の標準化、継続的な改善につながります。

附属病院の皆さまにおかれましては、正確で適切な診療記録の記載にご協力くださいますようお願い申し上げます。



■ ケアプロセス調査

ケアプロセスとは、患者さんが入院してから退院するまでの診療・看護の過程における業務の伝達やチーム間連携の実態を指します。病院機能評価におけるケアプロセス調査では、指定された症例、入院カルテを基に数名の患者について、以下の項目を評価します。

診療計画と看護計画の立案・実施

患者状態に応じた計画の更新や見直しが適切に行われていることを確認します。

チーム医療の連携

医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフなど、関連職種間の情報伝達や協働の実態を評価します。

指示命令系統の適正

医師の指示の伝達、実施、確認のフローが適切であることが重要視されます。エラーがある場合は認定留保につながる可能性があります。

マニュアル遵守

院内でマニュアルに則って診療やケアが実施されていることを評価します。

記録の適切性

電子カルテや紙媒体の記録が、入院から退院までの医療行為を時系列で正確に反映していることを確認します。

ケアプロセスを理解することで、医療の現場での質の高い支援が可能となり、患者さんや利用者の満足度向上やご家族の負担軽減にもつながります。多くの診療科を対象に事前練習の日程を組んでおり、担当医を始め関連職種の方達の協力と共に病院機能評価受審に臨みます。



呼吸器外科による練習風景

■ 模擬審査の状況・講評

2026年4月27日、病院機能評価の本審査に向けた事前準備として、院内模擬審査を実施しました。当日は日本医療機能評価機構より4名のサーベイヤーを招き、本審査を想定した形式で、書類確認や部署訪問、職員へのヒアリングなどが行われました。

模擬審査では、病院運営体制をはじめ、医療安全、感染対策、患者支援、診療記録管理など幅広い分野について確認が行われました。実際の審査を想定した環境のもとで評価を受けることで、当院の優れた取り組みを改めて確認するとともに、今後さらに充実を図るべき事項について具体的な助言をいただく貴重な機会となりました。また、多くの職員が模擬審査に参加し、サーベイヤーからの質問への対応や説明方法を経験したことで、本審査に向けた理解と意識の向上にもつながりました。

模擬審査で得られた指摘事項や助言については、現在、関係部署において内容を共有し、必要な対応や改善に向けた検討を進めています。今後も病院全体で情報共有を図りながら、病院機能評価の受審に向けた準備を着実に進めてまいります。



部署訪問（西9B病棟）

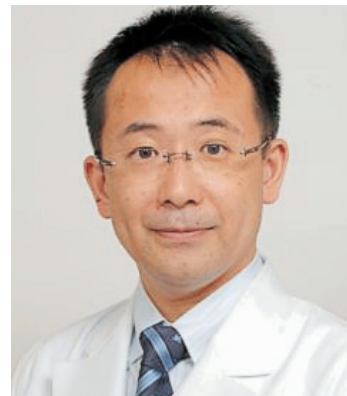
病院機能評価受審に向けて

病院機能評価は、日頃の医療活動や組織運営を客観的に見直し、より質の高い医療の提供につなげるための重要な機会です。受審はゴールではなく、継続的な質改善への新たなスタートでもあります。受審を前に、病院機能評価WG長及び看護部長からメッセージをいただきました。

■ 病院機能評価 WG 長

岩手医科大学附属病院では2回目の受審となる病院機能評価の訪問審査の日程が10月6日から8日に決定しました。病院機能評価は病院の質改善活動を支援する第三者評価ツールです。4つの評価領域（第1領域：患者中心の医療の推進、第2領域：良質な医療の実践1、第3領域：良質な医療の実践2、第4領域：理念達成に向けた組織運営）から構成される約90の評価項目で各項目の評価がB（一定の水準に達している）評価以上であれば「認定」となります（C評価が1つでもあればB評価以上に改善するまで審査が継続します）。当院は特定機能病院であり、機能評価認定が特定機能病院の承認要件として求められていることから、認定が必須となっています。特定機能病院は一般病院3に区分され、「病院の組織運営・ガバナンス」「医療安全・感染対策」が特に重視された内容となります。審査では平時の診療・取り組みが評価されるため、現在行っている診療および診療録記載等が、すでに評価の対象となっています。受審・訪問審査は一つの区切りではありますが、前述のように機能評価の目的は病院の質改善活動にあります。

受審を契機とした医療の質改善活動を継続し、指摘事項を真摯に受け止め、特定機能病院としての医療の質の水準を保ち続けるために、職員一丸となり準備を進めていきましょう。ご協力よろしくお願いいたします。



病院機能評価WG長
肥田 圭介 教授

■ 看護部長

病院機能評価の受審にあたり、日々の多忙な業務のなか、準備に尽力されている全職員の皆さまに心より感謝申し上げます。

5年前の初受審は、まさにゼロからのスタートであり、手探りのなか膨大な準備に追われる大変な日々でした。全職員が力を合わせてあの試練を乗り越えたからこそ、今年、初めての更新の年を迎えることができました。この5年間の積み重ねを確かな形として示し、当院が次のステージへと成長していく姿を実感できる、非常に重要な節目となります。

高度急性期医療を担う現場は常に負荷が大きく、厳しい環境にあります。そのなかで業務改善や確認作業を継続してこられたことは、当院の強固な組織力の証です。

看護部主任会を中心に、ケアプロセスの訓練や日々の小さな積み重ねを大切にして取り組んできた成果は、安全で質の高い医療を支える基盤となっています。

私たちが普段から大切にしてきた「当たり前の質の高さ」を、今回の受審を通じて客観的に評価していただく良い機会としましょう。

職員一人ひとりの取り組みが、当院の信頼と未来を支える原動力です。受審に向けて、全職員一丸となって臨んでまいりましょう。



副院長兼看護部長
佐藤 悦子

永年勤続者表彰式が行われました

6月9日（火）、大堀記念講堂において、永年勤続者表彰式が行われました。本年度の表彰者は勤続30年の方が20名（写真上段）、勤続20年の方が47名（写真下段）でした。式典では、祖父江理事長より勤続30年代表の中央放射線部 佐々木忠司 技師長と勤続20年代表の小児科学講座 赤坂真奈美 教授に表彰状と記念品が授与されました。これを受けて、患者サポートセンター 藤村紀子 看護師長（勤続30年）が謝辞を述べ、式典終了後に壇上ににて記念撮影を行いました。



勤続 30 年 柿澤 良江 北舘 則子 佐々木 由紀子 鈴木 有紀 西方 由希子 宮崎 昌子 **計 20 名**
 伊藤 伸 影山 雄太 佐々木 忠司 佐藤 葉子 立柳 総子 畠山 弥栄子 村井 治
 大畑 光彦 菊地 千津子 佐々木 三枝子 嶋守 一恵 戸羽 崇 藤村 紀子 山口 順之
(所属・敬称略、五十音順)



勤続 20 年 岩谷 岳 小沢 由佳 古和田 周吾 主浜 洋子 千葉 大樹 原田 英光 **計 47 名**
 赤坂 真奈美 上山 悠太 兼田 隆宏 齊藤 旭 菅川 香 照井 美咲 福士 絵里子
 朝倉 洋平 上野 望 亀野 亜沙美 齊藤 裕希 菅原 智佳 鳥羽 良陽 藤田 さちこ
 浅野 明子 遠藤 桂 久保 千尋 佐京 智子 高橋 宏彰 中島 理 松本 愛
 一ノ渡 学 遠藤 よし子 黒坂 大次郎 作山 浩史 多田 弥幸 奈良場 博昭 村田 法子
 伊藤 智範 大平 智子 高坂 太一 佐々木 陽子 田中 良一 沼田 真琴 安田 信玄
 岩泉 裕 奥山 郁江 肥田 圭介 佐藤 真実 千葉 健太 野村 彩香

学校法人岩手医科大学

〈令和7(2025)年度〉

決算

令和7年度は、学生収容定員未充足に伴う学納金収入の減少や世界情勢の変化に起因したエネルギー価格高騰、物価の上昇などが本学の財務状況に大きな影響を及ぼしました。このような厳しい状況下において、本学は、教育・研究・医療の質向上を目指し、各事業を推進しました。

また、補助金や研究費等の外部資金を積極的に獲得したほか、矢巾附属病院と内丸メディカルセンターそれぞれの

病院機能を最大限に活かし、経営基盤の更なる強化に努めました。

当期事業活動収支決算は、事業活動収入587億3,588万円から事業活動支出627億652万円を差し引いた△39億7,064万円が基本金組入前当年度収支差額となり、学術研究基金関連の基本金組入額△20万円を計上したことにより、当年度収支差額は△39億7,084万円となりました。

1 事業活動収支

(1) 事業活動収入

事業活動収入の合計額587億3,588万円は、前年度比25億7,494万円(4.6%)増加、予算比では32億7,740万円(5.3%)下回りました。

①学生生徒等納付金69億7,479万円は、前年度比7,210万円(1.0%)減少しました。主な減少要因は、学生数の減少によるものです。

②医療収入443億4,522万円は、前年度比18億9,757万円(4.5%)増加しました。附属病院(医科)と内丸メディカルセンター(医科)を合計した医科部門の医療収入は、前年度比19億2万円(4.6%)の増加、附属病院(歯科)と内丸メディカルセンター(歯科)を合計した歯科部門の医療収入は、前年度比246万円(0.2%)の減少となりました。

③補助金合計額は41億8,769万円で、前年度比8億2,391万円(24.5%)増加しました。

教育活動収入の経常費等補助金40億8,205万円は、前年度比9億1,960万円(29.1%)増加しました。また、国庫補助金として私立大学等経常費補助金14億7,928万円、医療研究開発推進事業費補助金(日本医療研究開発機構)3億5,867万円等、地方公共団体補助金として岩手県ドクターヘリ運航事業費補助金3億4,908万円、高度救命救急センター運営費補助金2億5,619万円等がありました。

特別収入の施設設備補助金1億565万円は、前年度比9,570万円(47.5%)減少し、高度救命救急センター設備整備費補助金5,000万円、保健衛生施設等施設・設備整備費国庫補助金1,474万円等がありました。

(2) 事業活動支出

事業活動支出の合計額627億652万円は、前年度比19億9,404万円(3.3%)増加、予算比では16億9,597万円(2.6%)下回りました。

①人件費230億9,281万円は、前年度比2億4,816万円(1.1%)減少しました。

給与、賞与及び所定福利費の合計202億445万円は、前年度比15億5,716万円(7.2%)減少し、退職金と退職給与引当金繰入額の合計15億893万円は、前年

度比3,313万円(2.2%)減少しました。

賞与引当金繰越額として、13億3,664万円を計上しました。

②医療経費206億8,629万円は、前年度比7億9,111万円(4.0%)増加しました。

医薬品費は、前年度比6億5,528万円(5.9%)の増加、医療材料費は1億3,606万円(1.6%)の増加、給食材料費は23万円(0.1%)減少しました。

医療収入に対する医療経費割合は46.6%となり、前年度より0.3%減少しました。

③消耗品費6億4,417万円は、前年度比3,094万円(4.6%)減少しました。

④光熱水費は、重油料3億355万円、ガス料4億774万円、電気料8億5,069万円、水道料1億3,469万円の合計16億9,667万円となり、前年度比5,479万円(3.1%)減少しました。

⑤修繕費は、施設修繕費1億3,727万円、機器備品修繕費2億7,777万円、合計4億1,504万円となり前年度比5,600万円(15.6%)増加しました。

⑥業務委託費60億9,433万円は、前年度比2,429万円(0.4%)減少しました。

病院別では、附属病院(医科)35億3,190万円、附属病院(歯科)855万円、内丸メディカルセンター(医科)9億349万円、内丸メディカルセンター(歯科)1億2,982万円となり、その他15億2,057万円です。

⑦減価償却額54億1,913万円は、前年度より2億3,358万円減少しました。

⑧その他の諸経費等は29億8,430万円となりました。主な内訳は、福利費2億7,565万円(学生福利費3,212万円、職員福利費2億4,353万円)、公租公課2億15万円(消費税1億3,163万円、法人税・事業税2,295万円、固定資産税・都市計画税4,183万円等)です。

⑨借入金利息により5,475万円を計上しました。

⑩資産処分差額2億7,380万円は、耐用年数が経過した資産未償却額の除却等です。

2 資本収支

(1) 資産の部

- ①施設関係支出 12 億 3,519 万円は、岩手医科大学病院再編改修工事による 9 億 9,550 万円等です。
- ②設備関係支出 4 億 3,171 万円は、教育研究用機器備品 4 億 2,168 万円等です。
- ③貯蔵品残高は、年度末に棚卸を行い調査した在庫分であり、医薬品・医療材料 8 億 5,231 万円、歯科貴金属 561 万円、合計 8 億 5,792 万円です。

(2) 負債、純資産の部

- ①退職給与引当金残高は、145 億 558 万円です。賞与引当金残高は 13 億 3,664 万円です。
- ②前受金残高 14 億 2,569 万円は、令和 8 年度入学生の学生生徒等納付金等です。
- ③預り金残高 8 億 2,860 万円は、源泉所得税 5,411 万円、

県市町村民税 1 億 451 万円、私学共済掛金 1 億 6,129 万円等です。

- ④基本金は△ 20 万円組入、8 億 7,220 万円取崩し、1,332 億 4,151 万円となりました。
- ⑤当年度収支差額△ 39 億 7,084 万円と、前年度繰越収支差額△ 638 億 1,522 万円および基本金取崩額 8 億 7,220 万円を合計した翌年度繰越収支差額は、△ 669 億 1,386 万円となりました。
- ⑥純資産の部合計（基本金＋繰越収支差額）は、前年度より 39 億 7,064 万円減少し、663 億 2,765 万円となりました。
- ⑦令和 7 年度末現在で作成する財産目録純資産額（資産総額－負債総額）は、663 億 2,765 万円です。

令和 7 (2025) 年度 事業活動収支計算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,974,785	人件費	23,092,814
	手数料	222,663	医療経費	20,686,288
	医療収入	44,345,224	消耗品費	644,169
	寄付金	548,250	光熱水費	1,696,668
	経常費等補助金	4,082,047	修繕費	415,039
	付随事業収入	1,355,559	業務委託費	6,094,329
	雑収入	967,031	減価償却額	5,419,131
			その他の諸経費等	2,984,304
	教育活動収入計	58,495,559	教育活動支出計	61,032,742
教育活動外収支	受取利息配当金	85,744	借入金等利息	54,752
	教育活動外収入計	85,744	教育活動外支出計	54,752
特別収支	資産売却差額	0	資産処分差額	273,803
	その他の特別収入	154,578	その他の特別支出	1,345,220
	特別収入計	154,578	特別支出計	1,619,023
	事業活動収入合計	58,735,881	事業活動支出合計	62,706,517
	基本金組入額合計			△ 200
	当年度収支差額			△ 3,970,836

令和 7 (2025) 年度 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	6,974,785	人件費支出	22,906,234
手数料収入	222,663	諸経費支出	32,485,418
寄付金収入	546,784	借入金等利息支出	54,752
補助金収入	4,187,694	借入金等返済支出	2,540,000
資産売却収入	132	施設関係支出	1,235,192
付随事業・収益事業収入	1,355,559	設備関係支出	431,709
医療収入	44,345,224	資産運用支出	3,895,171
受取利息・配当金収入	83,874	その他の支出	4,260,141
借入金等収入	1,000,000	資金支出調整勘定	△ 4,734,383
雑収入	978,046	翌年度繰越支払資金	7,123,405
前受金収入	1,425,693		
その他の収入	10,186,198		
資金収入調整勘定	△ 11,354,542		
前年度繰越支払資金	10,245,529		
収入の部合計	70,197,639	支出の部合計	70,197,639

貸借対照表 (令和 8 年 3 月 31 日)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	80,399,132	固定負債	25,782,098
有形固定資産	74,911,751	流動負債	9,803,799
特定資産	5,204,698	負債の部合計	35,585,897
その他の固定資産	282,683	純資産の部	
流動資産	21,514,417	基本金	133,241,508
		繰越収支差額	△ 66,913,856
		純資産の部合計	66,327,652
資産の部合計	101,913,549	負債及び純資産の部合計	101,913,549

学校法人岩手医科大学

〈令和8(2026)年度〉

予 算

1 予算策定にあたって

近年、18歳人口の減少や長期化する物価・エネルギー価格の高騰等により、日本の大学を取り巻く環境は一層厳しさを増しています。本学は附属病院を有し、医師不足が顕著な本県において地域医療を支える中核的役割を担っています。医療従事者の働き方改革が本格化する中、全教職員の健全な就業環境を確保しつつ、質の高い教育・研究・診療を提供し続けることは、医療系総合大学としての本学の使命です。

社会情勢が絶えず変化する中、本学が地域社会の要請に応え、将来にわたり持続的に発展するためには、既存の枠組みにとらわれない抜本的かつ柔軟な改革を断行する必要があります。令和8年度は、今後の地域医療を見据えた新たな医療提供体制を構築するため、「病院再編」を実施する重要な年度と位置付けます。さらに、医歯薬総合研究所の組織改編により、域学連携と産官学連携を推し進め地域社会へ貢献します。この大きな節目を契機として、学生から選ばれ続ける魅力ある大学づくりを推進し、ゼロベ-

ースの視点から既存事業の在り方を全面的に見直していきます。

以上の考え方のもと、令和8年度予算は、本学の現状と将来展望を多角的に分析し、経営再建計画に基づく健全かつ安定的な財務運営を最優先として編成します。

収入面においては、医・歯・薬・看護の4学部を同一キャンパスに擁する本学の強みを最大限に活かし、戦略的な学生募集活動により定員充足を確実に達成しなければなりません。あわせて、学内外との連携を強化し、補助金および外部資金の積極的な獲得を推進します。さらに、再編後の病院の機能と役割を最適化し、質の高い医療提供を通じて安定的な医療収入を確保します。

支出面においては、慣例や前例にとらわれることなく、すべての事業について必要性・有効性・効率性を根本から検証し、収入規模に見合った適正かつ効率的な予算配分を徹底し、持続可能な経営基盤を確立する予算としました。

2 主な予算項目

2026年度事業活動収支予算、資金収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金 68 億 5,618 万円(事業活動収入に占める割合 11.6%)、医療収入 453 億 5,176 万円(同 76.8%)、補助金 36 億 5,603 万円(同 6.2%)を計上しました。これら3項目で事業活動収入の 94.6%を占めています。その他の収入は 31 億 6,284 万円(同 5.4%)を計上し、事業活動収入予算総額は 590 億 2,681 万円を計上しました。

支出予算では、人件費 233 億 6,564 万円(事業活動支出に占める割合 39.2%)、医療経費(医薬品費、医療材料費、給食材料費) 208 億 7,735 万円(同 35.0%)、教育研究用等の経費など 153 億 9,739 万円(同 25.8%)を計上し、事業活動支出予算総額は 596 億 4,038 万円を計上しました。

以上に加えて、予備費2億円の支出と基本金△15億円の組入を計上したことにより、2026年度は△23億1,357万円の支出超過(赤字)を計上した予算策定となりました。

本学の財政は、事業活動収入の約 76.8%を医療収入に委ねており、支出においては、人件費と医療経費で約 74.2%を占めています。財政基盤の確立には引き続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

1. 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、授業料、入学金、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部 48 億 1,484 万円、歯学部 10 億 4,957 万円、薬学部 4 億 987 万円、看護学部 5 億 1,640 万円、医療専門学校 6,550 万円、合計 68 億 5,618 万円を計上しました。

2. 医療収入

附属病院(内科)、内丸メディカルセンター(内科)、附属病院(歯科)、内丸メディカルセンター(歯科)を合計した医療収入予算は、入院収入 312 億 6,141 万円、外来収入 138 億 4,829 万円、その他の医療収入 2 億 4,206 万円、合計 453 億 5,176 万円を計上しました。

3. 補助金

教育活動収入として、私立大学等経常費補助金 14 億 8,334 万円、その他の国庫補助金 5 億 9,727 万円、また、地方公共団体補助金は 14 億 9,162 万円を計上し、合計 35 億 7,223 万円を計上しました。

この他、特別収入として、施設設備補助金 8,380 万円を計上しました。

4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費などの人件費は 203 億 5,179 万円、また、退職金関係では 29 億 6,991 万円を計上して、その他を合わせ人件費は合計 233 億 6,564 万円を計上しました。

5. 医療経費

附属病院全体の医療経費として、医薬品費 118億5,143万円 (医療経費率 26.1%)、医療材料費 87億8,196万円 (同 19.4%)、給食材料費 2億4,396万円 (同 0.5%) を計上し、医療経費は合計 208億7,735万円 (同 46.0%) を計上しました。

6. 借入金等返済支出

市中金融機関からの借入金返済資金として 15億4,000万円を計上しました。

7. 借入金等利息支出

市中金融機関からの借入金利息資金として 7,962万円を計上しました。

8. 施設関係支出

事業計画施設工事関係等として、合計 3億円を計上しました。

9. 設備関係支出

仮想サーバ更新に係る費用として 2億9,000万円など、合計 9億567万円を計上しました。

令和8(2026)年度 事業活動収支予算書

(単位：千円)

区分	収入の部		支出の部	
	科目	金額	科目	金額
教育活動収支	学生生徒等納付金	6,856,180	人件費	23,365,640
	手数料	175,790	医療経費	20,877,350
	医療収入	45,351,760	消耗品費	511,250
	寄付金	628,210	光熱水費	1,636,620
	経常費等補助金	3,572,230	旅費	154,910
	付随事業収入	1,246,000	修繕費	420,260
	雑収入	972,230	業務委託費	5,615,470
			減価償却額	4,366,430
			その他の諸経費等	2,521,930
	教育活動収入計	58,802,400	教育活動支出計	59,469,860
教育活動外収支	受取利息配当金	105,800	借入金利息	79,620
	教育活動外収入計	105,800	教育活動外支出計	79,620
特別収支	その他の特別収入	118,610	資産処分差額	90,900
	特別収入計	118,610	特別支出計	90,900
	事業活動収入合計	59,026,810	事業活動支出合計	59,640,380

予備費	200,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 813,570
基本金組入額合計	△ 1,500,000
当年度収支差額	△ 2,313,570

令和8(2026)年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	6,856,180	人件費支出	21,498,460
手数料収入	175,790	諸経費支出	31,715,540
医療収入	45,351,760	借入金等利息支出	79,620
寄付金収入	626,910	借入金等返済支出	1,540,000
補助金収入	3,656,030	施設関係支出	300,000
付随事業・収益事業収入	1,246,000	設備関係支出	905,670
受取利息・配当金収入	105,800	資産運用支出	303,000
雑収入	972,230	その他の支出	5,499,280
前受金収入	1,410,070	予備費	500,000
その他の収入	10,814,700	資金支出調整勘定	△ 4,464,180
資金収入調整勘定	△ 11,203,410	翌年度繰越支払資金	11,734,670
前年度繰越支払資金	9,600,000		
収入の部合計	69,612,060	支出の部合計	69,612,060

詳細な説明・確認等を希望される方は、財務部経理課（内線 4555）まで照会願います。

薬学部白衣授与式が挙行されました

5月8日（金）、大堀記念講堂にて令和8年度薬学部白衣授与式が挙行されました。この式は、薬学部5年生が「薬学実務実習」を前に、臨床の現場へと一歩を踏み出す節目として行われるものであり、白衣を身にまとうことで、医療人としての自覚と責任感を新たににする重要な機会です。

式では、河野薬学部長から激励のことば、来賓として出席された畑澤博巳岩手県薬剤師会会長及び工藤賢三岩手県病院薬剤師会会長から、将来を担う学生たちへの期待の言葉が寄せられました。

白衣と名札の授与の後、学生代表の山岸晴希さんは「高度で良質な医療の実践と地域社会への貢献を目指し、誠心誠意、勉学と実習に取り組みます」と力強く決意を述べ、会場には静かな緊張感とこれから始まる臨床の現場に向けた真剣な空気が広がっていました。



受け取った白衣に袖を通し医療人として
新たな一歩を踏み出す学生ら

ライオンズクラブ国際協会様から脳神経内科・老年科へ寄付金が贈呈されました

ライオンズクラブ国際協会 332 - B 地区から脳神経内科・老年科の認知症研究事業に寄付の申し出があり、5月17日（日）、盛岡グランドホテルにおいて、第72回年次大会にて目録が授与されました。

脳神経内科・老年科では、2016年から矢巾町の高齢者を対象とした健診事業「やはば脳とからだのいきいき検診（YAHABA study）」を認知症コホート研究として10年間継続してきました。多施設共同研究 JPSC-AD における実績や地域への還元の取り組みが認められ、寄付金 150 万円が贈られました。

前田教授は「10年目の追跡データの固定後に縦断解析を進め、地域で得られたデータに基づいて岩手県全体に予防や早期発見に役立つ知見を発信していく」と今後の展望と決意を語られました。



左から：廣田利光キャビネット幹事、
前田教授、水本孝年次大会委員

ふれあい看護体験が行われました

5月19日（火）、本学附属病院において、ふれあい看護体験が行われました。ナイチンゲールの誕生日である5月12日が「看護の日」に制定され、その日を含む日曜日から土曜日までを「看護週間」としていることから、様々な施設でふれあい看護体験が実施され、当院では平成4年から行われています。

今年は県内の高校生 70 名が参加し、実際のユニフォームに袖を通し緊張した面持ちで体験に臨みました。体験終了後、生徒たちからは「患者さんに寄り添う看護の重要性や医療現場の責任の大きさを学ぶことができた」との感想が述べられました。看護の魅力ややりがいを実感し、将来の進路選択に役立つ有意義な体験となったようでした。



ドクターヘリに搭乗し機内の説明を受ける高校生ら

医療専門学校のオープンキャンパスが開催されました

令和8年度岩手医科大学医療専門学校の第1回オープンキャンパスが5月23日（土）、第2回が6月27日（土）に医療専門学校上ノ橋校舎で開催されました。高校生や保護者等多くの方々が来校され、総勢 37 名（第1回：17 人、第2回：20 人）が参加しました。

当日は、歯科衛生士の職業紹介や体験実習、在学生とのフリートーク等、多くの企画が用意され、好評を博しました。

今後のオープンキャンパス開催予定		
第3回	第4回	第5回
7月26日（日）	9月5日（土）	10月3日（土）

※いずれも 10 時から 12 時。第3回は学祭同時開催



アルジネート印象材で歯の型を取る参加者

ノーベル生理学・医学賞を受賞した坂口志文先生 による特別記念講演が行われました

6月2日（火）、大堀記念講堂において、ノーベル生理学・医学賞を受賞された坂口志文先生（大阪大学特別栄誉教授・免疫学フロンティア研究センター特任教授）による特別記念講演が行われました。

全学部学生を対象に行われた坂口先生の講演会は「制御性T細胞：その発見から新しい免疫医療に向けて」というテーマで免疫学の歴史や研究手法、制御性T細胞（Treg）のメカニズム、がん免疫療法への応用など幅広い知見をお話頂き、参加した学生は熱心に聞き入っていました。当日は、立ち見が出る程の大盛況となり、学内10箇所のサテライト会場も含め約1700名が参加しました。

講演終了後、学生から様々な角度からの質問があり、坂口先生は学生一人ひとりに対し、ご自身の経験談も交えながら丁寧に回答していました。本講演を通して学生は第一線の研究に触れ、非常に大きな刺激となったようでした。



講演する坂口志文先生

医療安全表彰・院内感染対策功労部署の 表彰式が挙行されました

6月16日（火）、附属病院10階大会議室において、令和7年度医療安全・院内感染対策功労部署の表彰式が行われました。医療安全功労表彰3部署、院内感染対策功労5部署に対し、小笠原病院長代理から表彰状が授与されました。

■医療安全功労表彰

- 外科（代表：佐々木教之 助教）
- 看護部外来（代表：岩泉康子 看護師長）
- 臨床工学部（代表：泉田拓也 技士長）

■院内感染対策功労表彰

- HCU（代表：鎌田景子 主任看護師）
- 東6階B病棟（代表：吉田麗佳 看護師）
- 東8階B病棟（代表：新妻景子 主任看護師）
- 東7階A病棟（代表：草野修司 助教）
- 施設課（代表：藤平直樹 総括課長）



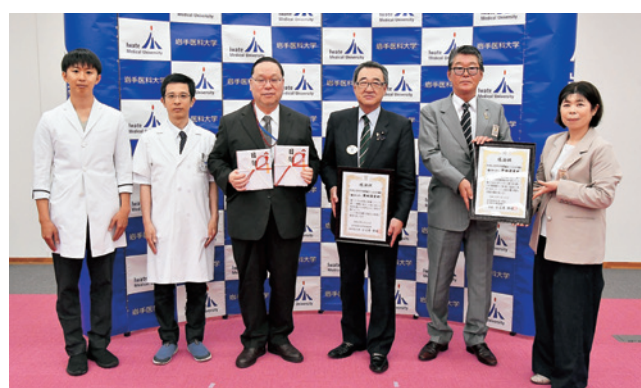
受賞代表者らによる集合写真

ライオンズクラブ国際協会様から寄付金が 贈呈されました

6月18日（木）、本部棟4階大会議室において、ライオンズクラブ国際協会332-B地区から「岩手医大眼球銀行（アイバンク）」及び「小児がんの子どもたちへの支援」に対する寄付金が贈呈されました。

同協会からはアイバンクに対し毎年100万円以上の寄付金が贈られ今年は1,480,523円が贈られました。小児がんの子どもたちへは329,960円が贈られ令和5年度から続いています。小笠原学長は「病気と闘う患者さんや医療従事者にとって励みになる。大切にに使わせていただく」と感謝状を贈りました。

贈られた寄付金はアイバンクの運営費や小児科病棟のイベント開催等に活用されます。



ライオンズクラブ国際協会の皆様と本学関係者

看護学部宣誓式が挙行されました

6月24日（水）、大堀記念講堂において、看護学部宣誓式が挙行されました。看護学部3年生88名が今年8月から来年6月まで長期の臨地実習（領域別実習）を行うにあたり、看護職者を目指す者としての誓いを立てることを目的に行われます。

式では、遠藤看護学部長、佐藤看護部長から学生一人ひとりへロウソクの灯が授与され、壇上に整列した学生全員による看護の道を志す宣誓が行われました。

出席した教職員及び保護者は、新たな決意を胸に歩み始めた88名の門出を大きな拍手で祝福しました。

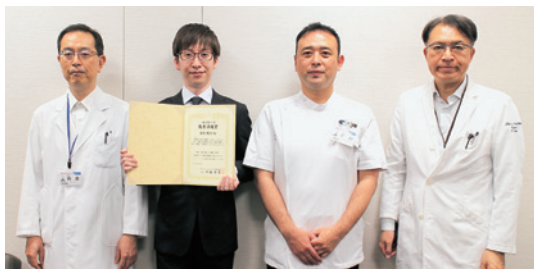


ロウソクの灯を受け取り壇上へ整列する学生

表彰の栄誉

臨床遺伝学科の勝部 暢介 助教が

日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 (JOHBOC) 学術総会において優秀演題賞を受賞しました



鈴木教授、勝部助教、前川講師、小原教授

この度、第6回日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構 (JOHBOC) 学術総会において、演題「去勢抵抗性前立腺癌 (CRPC) に対する BRCA 遺伝学的検査の現状と遺伝医療に関する課題—単施設の real-world data より」を発表し、一般演題 (口演) 優秀演題賞を受賞いたしました。

本研究では、CRPC に対する BRCA 遺伝学的検査を多数実施している当院の症例を対象に、BRCA 病的バリエーションの検出状況や家族歴、遺伝カウンセリングの実施状況について後方視的に検討しました。その結果、治療選択を目的とした遺伝学的検査が普及する一方で、遺伝性乳癌卵巣癌 (HBOC) 診療や血縁者支援への接続に課題があることが示されました。乳

癌や卵巣癌に関する研究や診療が先行していた HBOC において、泌尿器科領域からみた遺伝医療の現状と今後の課題を示した点をご評価いただいたものと考えております。

本研究は泌尿器科学講座との共同研究として実施したものであり、小原航教授、前川滋克先生をはじめご指導、ご協力を賜った先生方に深く感謝申し上げます。今後も遺伝性腫瘍診療の発展に貢献できるよう、研究を継続してまいります。

(文責：臨床遺伝学科 助教 勝部 暢介)

口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の池田 裕之介 先生が 日本口腔外科学会 若手口腔外科医優秀論文賞を受賞しました

この度、令和8年5月9日に若手口腔外科医交流会第4回学術集会において優秀論文賞受賞記念講演が行われました。本賞は若手口腔外科医が執筆し英文学術誌に掲載された過去1年間の原著論文の中から優秀論文を表彰するものです。発表論文は、「PLG1 overexpression in salivary gland duct-acinar units results in epithelial tumors with acinar-like features: Tumorization of luminal stem/progenitor cells may result in the development of salivary gland tumors consisting of only luminal cells」(Journal of Oral Biosciences 66:88-97, 2024. <https://doi.org/10.1016/j.job.2024.08.002>) で、唾液腺腫瘍モデルマウスの確立と唾液腺腫瘍モデルマウスの胎生期唾液腺原基器官培養下において唾液腺腫瘍を誘導し、その形態学的・分子遺伝学的解析により、唾液腺組織の管腔側細胞の中に含まれる腫瘍幹細胞の腫瘍化によって管腔側細胞のみからなる腫瘍が形成されることを明らかにしました。伝統的な唾液腺腫瘍の概念の一端を初めて実験的に証明するものとなりました。岩手医科大学大学院在籍時にまとめた学位論文がこの様な形で評価頂けたことを大変嬉しく思っています。

最後に、ご指導賜りました病理学講座病態解析学分野の入江太朗教授をはじめ講座の先生方、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野の山田浩之教授にこの場をお借りして深く感謝申し上げます。

(文責：口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野・岩手県立久慈病院歯科口腔外科 池田 裕之介)



池田先生、入江教授

生物学科の菅 孔太郎 助教が

2026 年度若手・女性研究者奨励金の「若手研究者奨励金」に採択されました



菅助教、
私学事業団 福原 紀彦 理事長

この度、日本私立学校振興・共済事業団の2026年度若手・女性研究者奨励金の「若手研究者奨励金」に採択され、5月19日に東京で開催された奨励金贈呈式において、受賞者を代表して贈呈書を授与されました。採択課題名は「海のゆりかご『マガキ養殖筏』が創出する生物多様性の解明：上位優占種ならびに絶滅危惧種のゴカイ類に着目して」です。本研究は、三陸沿岸で養殖されているマガキと、それに付着するゴカイ類との関係に着目し、地元の牡蠣漁師の皆様のご協力をいただきながら、牡蠣養殖が生物多様性の維持・向上に果たす役割の解明を目指します。また、本研究で得られるゴカイ類の塩基配列や分布情報は、後世のDNAバーコーディングや環境DNA解析の基盤となるものであり、絶滅危惧種の保全や外来種の早期発見に役立つことが期待されます。採択にあたり、ご指導いただきました松政正俊名誉教授をはじめ、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

(文責：生物学科 助教 菅 孔太郎)

表彰の栄誉

中央臨床検査部の三上 有里子 臨床検査技師が 画論 33rd The Best Image において超音波腹部部門最優秀賞を受賞しました

この度、「画論 33rd The Best Image」(令和7年12月14日 東京国際フォーラム)において「超音波腹部部門最優秀賞」を受賞しました。画論は診断・治療に有用な画像のクオリティ、被験者へのメリット、テクニックの創意工夫などクリニカルバリューを総合的に判断し、「画像診断技術の発展と医療への貢献に役立つ画像」を総合的に審査する学術イベントです。演題は「肝細胞癌：造影超音波多次元解析による免疫複合療法効果予測」で、超音波装置に搭載されたツールを駆使することで、切除不能肝細胞癌の診療に寄与し、治療効果予測の新たな可能性を示した点が評価されました。本受賞を励みに、臨床・研究の両面において研鑽を重ね、医療の発展に寄与できるよう一層精進してまいります。最後に、受賞にあたりご指導ご鞭撻いただいた皆様方に深く感謝申し上げます。

(文責：中央臨床検査部 臨床検査技師 三上 有里子)



三上臨床検査技師、黒田特任教授

歯学部5年生の増田 唯 さんが 第8回 JPS SCSC で優秀賞を受賞しました



日本補綴歯科学会 大久保理事長、
増田さん

歯学部第5学年の増田唯さんが、2026年6月7日にGCコーポレートセンター（東京都）で開催された公益社団法人日本補綴歯科学会主催「第8回 Japanese Prosthodontic Society Student Clinical Skills Competition (JPS SCSC)」において、優秀賞を受賞しました。

JPS SCSCは歯科補綴学分野における臨床技能を競う全国規模の学生競技会です。全国29大学が参加した一次審査を通過した後、本学代表として二次審査に出場しました。二次審査には6大学の代表学生が参加し、「ハイブリッドレジンCAD/CAM冠を想定した下顎左側第一小臼歯の支台歯形成」を課題とする実技試験が行われました。

審査では形成後の支台歯を口腔内スキャナーによりデジタルデータ化し、削除量や形態、フィニッシュラインの明瞭性などが総合的に評価され、日頃の講義・実習や自主的な研鑽によって培った知識と技術を発揮したことで高い評価を得ました。

今回の受賞は自身のたゆまぬ努力の成果であるとともに、本学における補綴歯科教育の成果を示すものとなりました。

(文責：歯科補綴学講座冠橋義歯・口腔インプラント学分野 講師 横田 潤)

医学部4年生の向井 稜人 さんが 第123回日本内科学会ことはじめ 2026 で優秀演題賞を受賞しました

医学部4年生の向井稜人さんが、4月11日に開催された「第123回日本内科学会 講演会 医学生・研修医・専攻医の内科学 ことはじめ 2026」において、演題「TAVI患者における冠動脈疾患と術後アウトカム—合併率・PCI施行率・臨床的背景の検討」を発表し、優秀演題賞を受賞しました。向井さんは伊伯龍太郎さん、榎木竜聖さん、古木海輝さん、松本隆太郎さんとともに、3年生の研究室配属で循環器内科を選択し、登坂恵吾助教、肥田頼彦講師の指導のもと研究に取り組みました。本研究では、TAVIを施行した大動脈弁狭窄症患者608例を対象に、冠動脈疾患の合併状況や術後予後との関連について解析を行いました。向井さんは研究データの登録や解析、発表準備に主体的に取り組み、本番では落ち着いた発表と的確な質疑応答を行い、その成果が高く評価されました。なお、指導者代表として肥田講師も指導教官賞を受賞しています。向井さんの優秀演題賞受賞を心よりお祝いするとともに、研究班の皆さんの今後益々のご活躍を期待しております。



(文責：内科学講座循環器内科分野 講師・教育担当主任 二宮 亮)

岩手医科大学募金状況報告

本学の事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。
ご支援いただいた皆様のご協力に感謝の気持ちを込め、ここにご芳名を掲載いたします。
今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。
※ご芳名及び寄付金額は、掲載を承諾された方のみ紹介しています。

学術振興資金募金

第34回目のご芳名紹介です。(令和8年4月1日～令和8年5月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<28,000,000>

株式会社 こずかたサービス (岩手県紫波郡)
(敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	539	287,228,220
在 学 生 ご 父 母	407	97,820,000
役員・名誉教授	48	113,730,000
教 職 員	50	8,640,000
一 般	30	489,153,572
法 人・団 体	337	474,953,980
合 計	1,411	1,471,525,772

(令和2年9月1日～令和8年5月31日現在)

歯学部支援基金を通じた寄付

第5回目のご芳名紹介です。(令和8年4月1日～令和8年5月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<200,000>

歯学部同窓会 秋田県同窓会 秋盛会 (秋田県横手市)
(敬称略)

■ 個人 (7件)

<1,000,000>

清 克行 (歯3)

<100,000>

杉本 正樹 (歯2)

<ご芳名のみ>

齋藤 善広 (歯16) 山本 正徳 (歯11)

齋藤 みずほ (歯20) 中里 滋樹 (歯4)

遠山 浩之 (父母) (順不同、敬称略)

区 分	申込件数	寄付金額 (円)
主 陵 会	101	20,499,000
在 学 生 ご 父 母	14	1,480,000
一 般	1	100,000
法 人・団 体	8	4,310,000
合 計	124	26,389,000

(令和7年7月1日～令和8年5月31日現在)

岩手県ドクターヘリ寄付金

第4回目のご芳名紹介です。(令和8年4月1日～令和8年5月31日)

■ 法人・団体等 (1件)

<ご芳名のみ>

岩手製鉄株式会社 (岩手県北上市)

(敬称略)

1. 2026 年度研究費予算について
2. 2025 年度事業報告について
3. 2025 年度決算について
4. 組織規程及び教育職員の定員に関する規程の一部改正について

医学部神経精神科学講座は、一般精神科及び精神科救急に加え「岩手県こころのケアセンター」の運営を通じてユニークな臨床・研究・教育を実施し、また「いわてこどもケアセンター」は児童精神科学における全国の拠点であることを踏まえ、今後の発展を鑑み「神経精神科学分野」と「児童精神科学分野」に改編すること、令和7年度をもって終了した寄附講座「障がい児者医療学講座」を削除することとして組織規程を一部改正すること、これに伴い神経精神科学講座の講座定員を両分野に振り分ける等、教育職員の定員に関する規程を一部改正すること、また、両分野の講座研究費配分額を承認した。

施行年月日
組織規程
2026 年 4 月 1 日
(障がい児者医療学講座の廃止による別表の改正)
2026 年 6 月 1 日
(神経精神科学講座の組織改編による別表の改正)
教育職員の定員に関する規程
2026 年 6 月 1 日

5. 教員の人事について
医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門 特任教授
長谷川 豊
(内科学講座糖尿病・代謝・内分泌内科分野 准教授との兼務)
(発令年月日 2026 年 6 月 1 日)
6. 医学部入学定員等の臨時的な増加の取扱いについて
2027 年度は地域の医師確保・診療科偏在対策等に有用な範囲に限り認める旨の通知を受け、岩手県との協議の結果、引き続き地域枠での医師養成の要望があることから、当該年度も岩手県地域枠として 35 名の臨時定員増を行う方針とすることを承認した。
7. 定時評議員会の開催日時及び議題・議案等について

1. 教員の人事について
口腔顎顔面再建学講座歯科放射線学分野 教授
泉澤 充(前 同分野 特任教授)
薬理学講座病態制御学分野 准教授
三輪 秀樹
(前 国立精神・神経医療研究センター精神保健
研究所精神薬理研究部 科研費研究員)
創薬・医療機器開発部門 特任教授
鈴木 悠地
(前 内科学講座リウマチ・膠原病・
アレルギー内科分野 特任准教授)
(発令年月日 2026 年 7 月 1 日)
基盤的研究部門 准教授
和田 直子
(現 中外製薬株式会社創薬薬理第一研究部 研究員)
基盤的研究部門 准教授
瀬川 宏知
(現 中外製薬株式会社事業開発部 課長補佐)
(発令年月日 2026 年 8 月 1 日)
2. 過労死等の防止に向けた改善計画の策定について
岩手労働局長からの改善計画策定指導を受けて策定した「時間外・休日労働の削減」等、計 6 項目の再発防止対策に取り組む改善計画を承認した。
3. 法人の土曜日の運営体制について
附属病院の土曜日の診療体制が、現在の第 1・第 4 土曜日半日体制から、原則第 1 土曜日 1 日体制となる

ことに合わせ、附属病院以外の運営体制も、原則第 1 土曜日 1 日体制とし、当該曜日が祝日の場合は第 2 土曜日を運営日とする等、連休等の状況も踏まえて毎年 2 月を目途に翌々年度の土曜運営日を確定の上通知することを承認した。

4. 2026 年度 研究費予算について
2026 年度研究費予算の一部変更について承認した。
5. 看護学部貸与奨学金規程の一部改正について
看護学部貸与奨学金規程について、申込者が近年減少傾向にある要因として、物価高騰に対する貸与金額の低さが考えられ、岩手県や他大学の修学資金貸付制度においては本学より高く設定している状況を踏まえ、採用者数を各学年 10 名以内から 5 名以内に削減、一人当たりの貸与年額を 36 万円から 72 万円に増額することとして一部改正することを承認した。
(施行年月日 2027 年 4 月 1 日)
6. 電子カルテシステムの更新について
2018 年 2 月に更新した現行の電子カルテシステムは、稼働後 8 年経過しサーバ保守が 2026 年度で終了となることから、2027 年度に更新する計画としており、更新機種として現行の富士通「LifeMark-HX」を選定することを承認した。
7. 附属病院の精神科病床削減について
病床数適正化支援事業補助金の実施通知を受け、病床利用率や運用状況を踏まえ検討の結果、2026 年度内に精神科病床を 5 床削減することを承認した。

お知らせ 医学部臨床講座の組織改編について

令和 8 年 6 月 1 日から以下のとおり医学部臨床講座の組織改編を行います。

変更前

神経精神科学講座

変更後

神経精神科学講座 神経精神科学分野
神経精神科学講座 児童精神科学分野

岩手医科大学報編集委員

祖父江憲治	阿部	俊
影山雄太	杉下	佳子
齋野朝幸	石森	由樹
藤本康之	高橋	淳美
白石博久	伊藤	祥子
佐藤泰生	稲垣	学人
藤澤美穂	高橋	美季子
細田留美子	松田	悠史
畠山正充	菅	孔太朗
藤村尚子	曾根	美都
高橋慶		

編集 後記

夏が来ますね。皆さんは夏は好きでしょうか？私はキライになりました。日差しが熱すぎます。犬が生活の中心なもので、散歩は早朝と日没後しか行けません。ドッグランに行っても1時間も遊べません。

今年はエルニーニョが発生してるみたいですが、冷夏にはならず高温、多雨になりそうとか…。最近の気象予報もAIを組み込んだ事で精度がすごく上がったと聞きますが、AIの環境負荷ってどうなんでしょうね？バタフライ効果もカオス状態ですね。

変化が急すぎて頭が追いつかないので、夏は静かに文化的な活動に勤しむ事とします。

(編集委員 畠山 正充)

岩手医科大学報 第566号

発行年月日／令和8年7月31日

発行／学校法人岩手医科大学

編集委員長／祖父江 憲治

編集／岩手医科大学報編集委員会

事務局／総務部 総務課

TEL. 019-651-5111(内線5452、5453)

FAX. 019-907-2448

E-mail:kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷／河北印刷株式会社

盛岡市本町通 2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp